

ウメにおけるモモヒメヨコバイの発生消長調査及び防除対策の検討

農業技術センター足柄地区事務所

実施期間：令和7年

課題・目的

■モモヒメヨコバイは主にバラ科樹木の葉を吸汁する害虫である。令和元年に本州で初めて和歌山県で確認されて以降被害が拡大し、令和4年に本県でも初発生を確認した。当所管内では、ウメ産地で葉の吸汁による白化、早期落葉を起こす被害が多発し、生育への影響が懸念されている。

■管内ウメ産地におけるモモヒメヨコバイの発生消長を調査し、防除対策を検討する。

活動内容

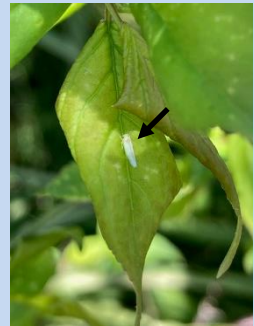
■令和7年3月から12月まで、小田原市内の慣行防除を実施しているほ場（以下、慣行防除園）のウメ4樹及び足柄上合同庁舎内の無防除ウメ1樹に黄色粘着シートを設置し、約10日ごとに回収、誘殺されたモモヒメヨコバイ成虫数を計測した。

■成虫の発生消長と防除記録を照合し、防除対策を検討した。

■成虫の発生は、慣行防除園および足柄上合同庁舎内の無防除ウメ、いずれのウメも調査期間中、4月上旬にもっとも多くなった。足柄上合同庁舎内の無防除ウメでは4月上旬以降も成虫の発生が続いた。一方、慣行防除園では4月上旬にダントツ水溶剤、5月上旬にモスピラン水溶剤を散布した。その結果、4月中旬以降生育期の成虫の発生は少なく、葉の白化は抑えられた。



モモヒメヨコバイによる葉の白化



モモヒメヨコバイ成虫

具体的な成果

■4月、5月に殺虫剤の散布を行えば、生育期のモモヒメヨコバイの多発生を抑えられる。

地域のウメ防除の一例

4月上旬：ダントツ水溶剤（防除対象：アブラムシ類、ケムシ類、カメムシ類）

5月上旬：モスピラン水溶剤（同上：アブラムシ類）

■モモヒメヨコバイの発生が多く、早い時期から葉の白化が見られる場合は、7月中～下旬にエクシレルSEの散布を行う。